

第11回 福岡市科学館に係る指定管理者評価委員会 議事概要			
日 時	令和7年11月20日(木) 13:00 ~15:50 場所:福岡市科学館4階 会議室2・3		
	委員長 渡辺 亮一 福岡大学工学部社会デザイン工学科 教授 副委員長 丸田 起大 西南学院大学商学部商学科 教授 池田 祐香 公認会計士協会北部九州会 公認会計士		
出席者 (敬称略、順不同)	<欠席> 杉原 賢太郎 福岡市小学校理科研究会 会長 真鍋 徹 北九州市立自然史・歴史博物館 館長 [指定管理者] ※議事(2)、(3)のみ出席 [事務局] ■福岡市 こども未来局こども健全育成課 香月課長、鐘ヶ江係長、神田		

【議事次第】

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事
 - (1) 委員長の選出について
 - (2) 令和6年度の運営状況について
 - (3) 「第2次5カ年計画」に基づく管理運営に関するセルフモニタリング結果について
 - (4) 「第2次5カ年計画」に基づく管理運営に関する市の評価について
 - (5) 委員会における評価内容の審議
 - ・「第2次5カ年計画」に基づく管理運営に関する市の評価
 - ・運営に関する市の年度評価
- 4 その他

【議事概要】

1. 開会

2. あいさつ

3. 議事

(1) 委員長の選出について

(2) 令和6年度の運営状況について

資料にしたがって指定管理者から説明があり、内容についていくつかの質疑応答が行われた。
以下、要旨をまとめます。

委員	令和5年度から来館者数が減少しているようであるが、減少理由は何かあるか。
指定管理者	令和6年度が減少しているというよりは、前年度の令和5年度が特別展等に多くの来場があり、来館者が多かったもの。令和6年度は、来場が落ち込む懸念もあったが、結果的に計画値よりも増加しており、課題とは考えていない。
委員	広報体制について、現状の人員体制で課題があるか。
指定管理者	広報はSNS等にも力を入れているが、人員的には足りていると考えている。
委員	学習投影は良い取組みだと思うが、一般の方も利用できるか。このような取組みはニーズがあると思う。

指定管理者	主なターゲットは小学生の一日学習であるが、座席に余裕があれば一般の方も利用できる。
委員	小学校との連携の取組みとしての出前授業は、福岡市立小学校が多いようだが、私立小学校は連携対象ではないのか。
指定管理者	連携対象ではあるが、私立学校の申込実績が少ない状況である。
委員	来館者の年齢層として中高生は課題とのことだが、中高生を呼び込むための企画やニーズは把握できているか。
指定管理者	交流室に勉強に来ている人は多いが、イベントの参加は少なくなる。 なお、中学・高校の教員との連携の取組みは力を入れている。また、運営自体に中高生が参加してもらう取組みを検討している。
委員	中高生の利用を促進する取組みは継続して実施してほしい。

3 議事（3）「第2次5カ年計画」に基づく管理運営に関するセルフモニタリング結果について

資料にしたがって指定管理者から説明があり、内容についていくつかの質疑応答が行われた。
以下、要旨をまとめます。

委員	SNSの強化について、具体的にどのように変えていくかとしているのか。
指定管理者	イベントごとにターゲットが異なり、ターゲットによって適したメディアや戦略を検討する必要があると考えている。
委員	WEBアンケートはどのように相手に送付しているのか。
指定管理者	現在は、居住地などのターゲットを設定して実施している。今後は、対象者の属性のバランスを取るために、絶対数を増やすことも含めて考えていきたい。
委員	サイエンスコミュニケーション研修を実施したSSH（スーパーサイエンスハイスクール指定校）に、なぜ県立鞍手高校を選んだのか。
指定管理者	福岡市科学館に対し、高校側から申込みがあった。 今年度は県立城南高校とも一緒に取組みを始めている。
委員	運営方針6について、そもそもA評価にできる目標となっているのか。回数を増やせばA評価になるのか。
指定管理者	評価については、定量的な評価と定性的な評価がある中で、定量的なものでは評価しきれない部分もある。定性的な評価も含めて説明をしていきたいと考えている。

以降の議事要旨は省略

以上